

附帯意見に対する考え方について

万代島にぎわい空間創造事業「市民市場」活性化に関する意見書（2019年2月）における附帯意見について、新潟市は、万代にぎわい創造株式会社に以下のとおり協議、確認しました。

（１）情報発信の強化

市民市場について、施設や駐車場、イベント情報、旬な商品など、取り組みや商品の内容が十分に周知されておらず情報発信不足がみられる。さらなる活性化を目指すためにも SNS を活用するなど、容易に情報が入手できるよう対応すること。

現在、全店舗において、ツイッター等の SNS で、イベント情報や商品の内容を紹介している。今後も、施設や駐車場の情報も含めて、SNS 等を利用して ICT デバイスをフル活用し、広報を行う。

また、ホームページに各店舗 SNS 情報の掲載、各店舗 SNS でハッシュタグの統一化を行うなど、ピア Bandai に係る情報集約を行い、広報の充実を図る。

（２）周辺施設との連携

万代島には朱鷺メッセをはじめ、交流拠点となる施設が多く立地しているが、各施設間における来場者の回遊性が乏しい状況から、各施設や開催されるイベントなど必要な情報をこれまで以上に共有・連携を図り、万代島全体の回遊性向上に資する取り組みを強化すること。

朱鷺メッセ、万代島多目的広場、ウォーターシャトル、新潟漁業協同組合等と、イベント情報等のピア Bandai 施設内への掲示、SNS でも情報をリツイートする等の相互連携を図れるよう調整する。

また、「万代島地区将来ビジョン」にもある万代島地区の情報一元化をはじめ、万代島地区の各施設が連携した取り組みやイベントについて、新潟県、新潟市、新潟西港・水辺まちづくり協議会などの関係者と連携・協力しながら進めていく。

（３）ブランドの構築

「ピア Bandai」ブランドの構築に向け、土産品をはじめとしたそこにしかない商品の展開やテナントの誘致など、さらなるにぎわいの創出に向けた取り組みを実施すること。

ピア Bandai でしか購入できない雪室ブランドとのコラボ商品や、ピア Bandai 独自の商品開発を検討していく。また、各テナントが行っている、インターネット及び紙媒体の通信販売を一元化できる仕組みを構築し、ピア Bandai の商品販売を集約する。

「ピア Bandai」のロゴデザイン等を変更し、ピア Bandai ブランドのイメージ向上を図る。

(4) インバウンドの受入強化

海外からのインバウンド受入強化に資する取り組みとして、市をはじめ関係機関との連携を深めるとともに、外国語によるサインやキャッシュレス決済の導入など必要な対応を強化すること。

市や関係機関とクルーズ船受入をはじめとしたインバウンドに係る連携を強化するとともに、事務局のコンシェルジュ機能の充実、多言語による看板の設置、全店舗多言語メニューの展開、多言語 WEB ページの作成等、インバウンドの受入強化を行う。

また、キャッシュレス決済の端末機は、PayPay を 2019 年 5 月に全店舗導入しているが、Alipay (アリペイ) や WeChat Pay (ウィーチャットペイ) 等の全店舗導入に向けて検討を進めるとともに、今後の情勢を踏まえて、そのほかの可能性も探っていく

(5) ユニバーサルデザインの推進

老朽化した施設の更新などにおいては、障がいのある方もない方も外国の方にも同様に楽しく来場できるよう、ユニバーサルデザインを考慮したものとすること。

今後、施設の補修や更新の際には、「ユニバーサルデザイン」を十分に考慮しながら検討を進める。

(6) 市が果たすべき役割

市は提案された計画について、進捗状況のほか実施によりもたらされる成果・効果について継続したチェックを実施すること

新潟市と万代にぎわい創造株式会社で、毎年協議報告会を開催し、各種事業の進捗状況、成果、効果について、確認を行う。

また、3 年ごとに外部の有識者による検討委員会を開催し、客観的・専門的観点から意見をいただくことで、新潟市と万代にぎわい創造株式会社は、万代島にぎわい創造事業をより良いものにしていく。

<附帯意見以外の対応について>

万代にぎわい創造株式会社は、万代島にぎわい空間創造事業「市民市場」活性化検討委員会に提出した提案書の内容を推進するとともに、上記附帯意見に対する考えのほか、「万代島地区将来ビジョン」の実現へむけ、新潟市などの関係者と協力して万代島地区の一層のにぎわい創出を図っていく。